

第65回日本PTA全国研究大会 仙台大会報告書

富士市PTA連絡協議会顧問 渡邊 寛子

つながるうPTA!子どもたちの輝く未来のために
～杜の都発!みちのくの今を伝えたい 感謝の思いと確かな歩みとともに～

平成29年8月25日(金)26日(土)の2日間、日本PTA全国研究大会 仙台大会に参加して来ましたので報告させていただきます。

1日目は、第1分科会から第8分科会、特別第1分科会、特別第2分科会の計10カ所で分科会が開かれ私は、第2分科会の家庭教育 子どもの個性を伸ばす家庭環境を求めて やる気を育むチカラに参加して来ました。まず、歓迎アトラクションのかにっこ和太鼓隊とほうねん座の迫力ある太鼓から始まりました。

基調講演『健やかな脳発達のために～賢い子に育てる究極のコツ～』国立大学法人東北大学スマートエイジング学際重点研究センター副センター長 加齢医学研究所教授 瀧 靖之氏の講演を聞きました。東北大学では、300人の5～18歳の子供を対象とした脳のMRIデータベースを作成し大規模な脳発達研究を遂行し、いろいろな事が分かってきました。

①0歳～2歳は愛着形成期で子どもをたくさん抱きしめてスキンシップを行い、図鑑を見せたり絵本の読み聞かせをはじめ、音楽を聴かせる。②3歳～5歳は運動や楽器を始めることにより、知的好奇心を育てる③8歳～10歳が英語を含めた第2言語の習得時期 ④思春期は脳のコミュニケーションを司る部分が発達するので特に対面コミュニケーションが重要。

特に3歳～5歳の時期に図鑑・虫取り網・楽器が3種の神器、と言うのは図鑑は脳への刺激にも効果的で 文字を読む時には言語野、写真やイラストを見るときには図形認識や空間認知など複数の脳の領域を活性化できる。親も一緒になって図鑑に親しむ姿勢を子どもに見せる事が大事となる。図鑑で興味を持ったものを実物で見たり体験する。虫取り網を持って実際に虫を捕まえることで仮想世界と現実の世界を結びつける。楽器は特にピアノがおすすめ。脳内の音を司る領域と言語を司る領域がほぼ重なっているため、言葉の発達の時期に刺激となる。将来的に外国語の習得にも有利に働く。他にも睡眠時間の長い子ども、朝食にご飯をしっかり食べている子どもの脳の発達が良いなど今すぐ家庭で実践出来る興味深い内容が沢山ありました。

2日目は、歓迎アトラクションの伊達武将隊の殺陣のショー、仙台すずめ踊り、さんさ時雨から始まりました。記念講演は、ウエイトリフティング選手ロンドンオリンピック銀・リオデジャネイロオリンピック銅メダリストの三宅宏美氏とメキシコシティオリンピックウエイトリフティング銅メダリスト三宅義行氏の『オリンピックへの挑戦～家族の絆で掴んだ父娘メダル～』でした。

この2日間でPTA活動をしていなければ経験出来ないような貴重な経験をさせていただき、これからの自分自身の子育てやPTA活動に役立てていきたいと思えます。ありがとうございました。